大賞

明るい生活になる本に出会って

汐入東小学校　四年　木谷　結里佳

柳田先生こんにちは。

わたしが5さいの時の事でした。わたしの家に新たな命が生まれました。そのため、お母さんは弟の世話で、お父さんは仕事で全然遊んでくれませんでした。だから、その時は、ようち園に行くのがゆいいつの楽しみでした。ようち園から家に帰ると、弟はあんなにお母さんといられて、楽しそうでいいなと思っていました。一番強くいいなと思っていた時の夜、お父さんがいつもより早く帰って来ました。

その時に『ちょっとだけ』という本をお父さんが買ってきてくれました。そして、読んでくれました。

そこには、こんな風に書いてありました。主人公のなっちゃんという女の子に赤ちゃんが生まれたというお話でした。でも、なっちゃんはちょっとのがまんとちょっとのせいこうを生んでいました。がんばったらせいこうすると思っているなっちゃんと、むりむりと思っている自分とは正反対でした。

ちょうど、お父さんがこの本を読み終わった時に、なっちゃんのやり方で、いろいろちょうせんしてみようと思いました。

そして、前の自分をかえてみようと努力しました。そしたら、お買い物に行く時、弟をだっこしていて手をつなげなかったから、スカートやズボンのすそをちょっとつまんで、手をつないだつもりにしたら

「がまんができてえらいね。」

と、言いながらニコッとわらってくれたので、すごくうれしくなりました。これがなれると次は、帰りに持って

帰る荷物を持ってあげられるようになり、食べたい物を前より多く買ってもらえるようにもなりました。そして、ブランコも、もっと大きく自分の力でゆらせるようにもなりました。

なっちゃんのやり方でいろいろちょうせんすると、前の自分よりもすごく楽しい生活を送れるようにもなりました。

でも、なによりもすきになったのは弟でした。

わたしは、この本で生活が明るくなりました。そのためすごく、この本に出会えてよかったと思いました。この本は、暗かった生活をかえてくれる本です。柳田先生もぜひ一度、読んでみて下さい。

【柳田邦男さんからのメッセージ】

五歳の時、弟になる赤ちゃんが生まれて、お母さんがそれまでのように自分のことを見てくれなくなり、寂しくなったのを、どう乗り越えたかを思い出して書いてくれたんですね。どんな子だって、お母さんが赤ちゃんの世話ばかりして自分は放っておかれたら、赤ちゃんをうらやましく思ってしまうよね。

そんな日がどんどん過ぎていくなかで、お父さんが絵本の『ちょっとだけ』を見つけてきて、読んでくれたんですね。そんな時にぴったりの絵本を見つけてくるお父さんはすばらしいです！そして、お父さん以上にすばらしいのは、主人公のなっちゃんを見習って、赤ちゃんをうらやましく思うだけだった「前の自分をかえてみようと努力」した結里佳さんです！

お買い物に行く時、お母さんのスカートなどをちょっとつまんでがまんするだけじゃなくて、帰りに荷物を持ってあげることまでするなんて、感動しました。

弟のことをうらやましく思って、心を閉ざすのではなく、絵本から気づいたことを、積極的に実践することによって、自分の生

活を明るいものに変え、その結果、「なによりもすきになったのは弟でした」と言い切れるようになったという。これは、人生を明るいものにするかどうかは、自分の心のもち方によるのだという、とても大事な生き方を学んだことを意味します。これからも辛かったり、人をうらやんだりすることがあっても、五歳の時の経験を思い出したり、いろいろな本で出会った主人公の生き方を見習ったりして、困難を乗り越えてください。